

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成31年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学・英語）」に関する調査と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

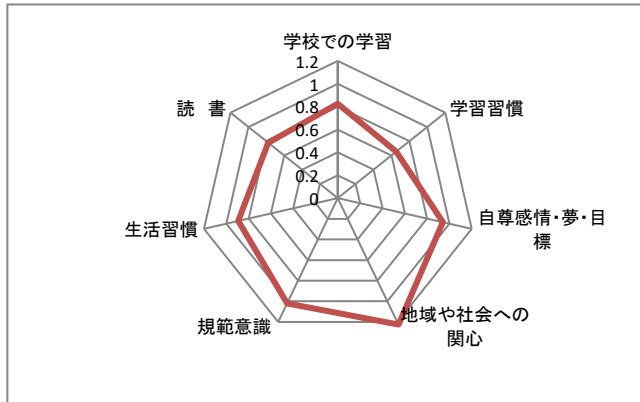
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定的一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	文章理解に関する問題で、県平均を大きく下回っている。 文字で説明する問題は、無回答率が高くなる傾向がある。	下回っている
数学	文章問題などの活用に関する問題の方が正答率が低い。 自分の考えや解き方の説明を記述する記述式の問題の無解答率が高い。	下回っている
英語	「聞く」「話す」ことに関しては正答率が高い問題もあるが、「書く」力に課題が見られる。文法の知識、語彙の理解不足の傾向が見られる。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○学校の決まりを守ったり、いじめはどんな理由があってもいけないと考えたりすることができるなど、規範意識の高い生徒が多い。
○地域の行事の参加率が高く、地域や社会への関心が高い傾向が見られる。
○自分のよいところを発見するという自尊感情の高低に個人差が見られる。学校行事や学級活動、部活動等を通して、個々に応じた自己肯定感を高めていくことが必要である。
○授業中に積極的に自分の意見を発表したり、話し合ったりすることが苦手な傾向が見られる。
○全国平均に比べ家庭学習の時間が大幅に少なく、自分で計画を立てて学習する等の学習習慣づくりを行う必要がある。
○本や新聞を読む習慣が少なく、読書等を通して文章に慣れ親しむ習慣づくりを行う必要がある。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 授業の中に少人数での交流活動を多く取り入れ、自分の意見を発表したり話し合ったりする場を保障する。
- 朝読書の取組を実施し、読書に慣れ親しむ習慣づくりを図る。
- 宿題及び自主学習ノートの取組を充実させ、家庭での学習習慣づくりを図るとともに思考力・判断力・表現力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 食育指導等を通して、充実した学校生活を送る上での「食の大切さ」、「朝食の重要性」について啓発を図る。
- 生活リズムが崩れないように、スマホ、ゲームなどの使用について家庭でのルールを決めるよう生徒、保護者に周知する。
- 学校からの様々な通信や懇談会等を通して、基本的な生活習慣や家庭学習の意義、取組について理解を図る。